

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム アローラ
所在地 (県・市町村名)	堺市北区長曾根町3065-1
記入者名 (管理者)	野田 智美
記入日	平成 20年 10月 16日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時より、法人全体の理念として、「敬愛・真心・奉仕」を掲げている。昨年、地域密着型としての志向が十分に表現されていないとの指摘があり、『私たちはNPO精神に基き地域社会に根付いた介護を目指します』という言葉を加え、事業所全体で認識し、日々の介護に取り組んでいる。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>開設時より、法人全体の理念として、「敬愛・真心・奉仕」を掲げ、また、『私たちはNPO精神に基き地域社会に根付いた介護を目指します』という言葉を加え、法人代表者からも、毎年、年頭に、理念についての抱負を各職員に示し、それについての感想文を提出している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>グループホームの各階入口に理念を掲示しており、また、重要事項説明書にも記載・掲示し、家族や来訪者に知って頂くようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所のスーパーや喫茶店に出掛けることで、近隣との関係を作っていくように取り組んでいる。また、法人理事長が地元であることもあり、地域の会合等をホームで行ない、地域の人々の出入りが多くなるように働きかけている。また、納涼祭には、地域の自治会のテントを借り、盆踊りのボランティアや模擬店の屋台など手伝ってもらっている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域のプロバスクラブよりボランティアに来て頂く事で、地元の人々との交流を心掛けている。また地域のボランティアグループの方々に平均週1~2回は来て頂き、散歩や童謡の斉唱、また、囲碁の相手などしてもらっている。</p>	<p>町内会に加入することにより、今までより積極的に地元との交流に参加していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>			運営推進会議を活かし、今後、何か役立つことはないかを話し合い、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価実施後に、評価内容を部門長会議で報告し、指摘事項の改善方法等の意見を交わし、今後につなげるようにしている。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	外部評価の評価内容を、部門長会議等で検討した内容を含め、毎月行なっている職員会議で報告し、検討している。また、運営推進会議のメンバーである地元民生委員がすこぶる協力的で、自治会との融合など働きかけてもらい助かっている。		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	地域包括支援センターとは、入居者の相談等の機会を持つようにしている。また、納涼祭等、ボランティアに来て下さっている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	北区管内における介護支援専門員連絡会やグループホーム長会議において研修の場が設けられることがあり、それに参加している。また、理事会メンバーである顧問税理士と司法書士の先生が相続専門の会社を設立されたことなどもあって、成年後見制度について学習している。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	北区管内における介護支援専門員連絡会やグループホーム長会議において研修の場が設けられることがあり、それに参加している。その内容を職員会議で報告することで、理解してもらったり、話し合いを行ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明を行なうのはもちろんのこと、契約後や解約後に出てくる不安や疑問点(相談等)にも都度対応するようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2階3階とも内玄関エレベーターホール前に意見箱を常設していて、無記名にて忌憚のない意見を承る設備を設けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の家族の方達が比較的多く面会に来て下さる為、その際に状態等報告している。会えなかった時には電話連絡し、伝える様に努めている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>2ヶ月に1回開催している運営推進会議に利用者の家族にもメンバーになってもらっており、その場で意見を求めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見は、常に直接管理者に話ができる形を取っている。また、毎月必ず行なっている職員会議の重要なプログラムのひとつになっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間については、開設時より、利用者の状況に応じて調整している。また職員の大多数が徒歩や自転車での通勤範囲に居を構えている為、急な場合でもすぐに駆けつけてくれる態勢になっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>当事業所の特徴の一つは、離職者が少なく、開設時より三年以上の勤務者が7割を占めている為、入居者に安心感を持ってもらっている。(非常勤はなし) 離職の際は、2ヶ月前には退職願を提出することで、引継ぎがスムーズにいっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の職員会議の中で研修時間を設けている。また外部より、医療・介護の面で経験豊富な職員を顧問として招聘し、教育・指導・監督の任にあたってもらっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月、地域のグループホームの管理者または計画作成者による会議を開催しており、その中で職員の交流や施設見学についての検討を行ったりしている。また、地域の福祉関係者の合同研修の場である地域安心ネットワーク会議に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>意見があれば、管理者中心に職員が話ができる環境を作っている。また、場合によっては、理事長にも直接話ができるようにしている。また、ボランティアで、職員の精神面でのフォローを目的に、月1・2回、来てくれている。(心理カウンセラー)</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎年、年頭に法人理事長より、職員へ新年に際しての文を配布し、職員はそれに対してレポートを提出し、理事長と1対1で話せる機会を設け、1年間の目標を立てて働けるようにしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者だけでなく職員についても入職時及び職員会議内において、「話を聴く(傾聴)」ことについての研修を行なっている。不安な様子が見られる時は、側に付くという事を、職員全員で認識している。また、今年度より新たに担任制を設け、より深くコミュニケーションを図り、それを全体で情報として共有するようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時より、ご本人はもちろんのこと、家族が話をしやすい雰囲気を作り、不安なことや求めていることに耳を傾ける様、努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者及び計画作成者を中心に、その対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者及び計画作成者を中心に対応に努めているほか、入居時に体験入居を一定期間設けて対応している。また、併設のデイサービスを利用されていた方が、現在4名入居されている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護をしながら、職員自身も学ぶ事も多く、利用者がしてほしいことを、誰にでも言える雰囲気を作り、その中で、支えあう関係が出来ればと努めている。入居初期で落ち着かれない時は、添い寝などもしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況にもよるが、家族からの申し出も多く、職員と共に可能な範囲を考えながら、入居者の生活に関して頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係は様々である為、今までの生活を少しでも多く知ること、管理者を中心に、本人と家族がよりよい関係を保てる様、それぞれの相談に応じながら対応している。これも、担当制を設けることにより、更に充足しつつある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話またはこれまでの馴染みのある人に、家族の協力を得ながら、面会に来てもらったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その時々状況に合わせ、職員が間に入ったり、見守ったり、声を掛けたりしながら、対応している。また、ボランティアの方を中心に、皆で歌を歌ったり、孤立することなく楽しい時間を過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、必要に応じ、ホームに連絡が入り、管理者及び計画作成者中心に、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・計画作成者を中心に、職員全員がコミュニケーションを多くとり、本人と話す事で思いや意向を掴むように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接で把握するよう努めているほか、入居後は入居者の会話から聞き取り、その話を基に、面会時に家族からも聞くなど、努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全体で把握するよう、努めている。また、より一人ひとりを把握出来る様、担当制にし、各担当が積極的に現状を把握し、他職員にも伝える様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活している中で出てきた本人の意向や、面会時に家族と話をすることでつかんだ家族の意向、また、日頃の職員の声にも耳を傾けることで、意見やアイデアを反映するよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に変化がなければ、介護計画の作成、モニタリングを3ヶ月ごとに行い、状態の変化があれば、その都度計画を変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務は早出・日勤・遅出・夜勤と4段階のシフトを組んでいるが、職員はいずれの場合にも勤務時間30分前には出勤し、勤務に就く前に全入居者のそれまでの行動などを記録した個人記録に目を通してから勤務に就くことにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が散髪に行きたいと言われた時には、職員と一緒に出掛けたり、買いたい物を一緒に買いに行ったりと、出来る範囲で臨機応変に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	社会福祉協議会からの囲碁ボランティアや、プロバスクラブから歌のボランティアに来て頂いている。また、消防署による年2回の避難訓練や消火活動の演習を行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ADLの低下に伴い、レンタルベッドや車椅子の必要性が大きくなっている為、必要に応じ、サービス事業者と連絡を取り、支援を行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	相談をする程度である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一建物内の1階に内科クリニックがあり、入居者のちょっとした異変にも迅速に対応し、状況に応じて往診・点滴などをしてくれている。また、必要時は、かかりつけ医だけではなく、近くの眼科・整形外科などへも紹介状を書いて頂き、また、電話等でも連携をとって下さっており、家族からも安心という声が聞かれる。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報・プライバシーに対しては、職員採用となった時に、同意書をとっている。また、職員研修の中で、利用者への言葉遣いや接し方の研修を行い、対応するようにしている。特に言葉遣いに関しては、親愛ではなく、敬愛を強調している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個々に合わせた声掛けを行ったり、利用者が自己決定出来るようにゆったり関るように心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての日課は決めておらず、起床から就寝に至るまで、出来る限り、一人ひとりのペースや、その日の状態に合わせてながら対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類については、在宅で着ておられた物や本人の好みに合わせ、家族が購入した物を着て頂いている。理美容については、職員と出掛けたり、家族が外出を兼ね、出掛けている。時にはボランティアの美容師さんをお願いする事もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居当初は可能であった利用者も、年数を重ねるごとにADLの低下が見られ、困難になってきている。利用者によっては出来る範囲で職員と一緒に準備や片付け、皿拭きをして頂いている。入居者の中にはお惣菜屋を経営しておられた方があり、時折(体調や気分の良い時)調理もして頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	居室が全て個室である為、利用者によっては冷蔵庫を持ち込み、チーズを冷やしたり、ビールを飲まれたりと、ある程度、自由にして頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意・便意の有無に関らず、可能な限りトイレ誘導を行い、対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に応じて可能な範囲でタイミングを見て、入浴して頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個人の就寝時間に合わせるほか、なかなか眠れない利用者には、職員が側に付き、一緒にお茶を飲んだりして、眠たくなるまで寄り添う等している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	コミュニケーションをしっかりとって、個人の楽しみ等を掴み、職員と共に行なったり、場合によってはボランティアを取り入れたりして支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や気候が悪くない限り、ほぼ毎日、職員と買物を中心に外出している。また、外出援助でボランティアにも参加して頂き、支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節により、花見や散策等、可能な範囲で外出できるように努めている。9月には大泉緑地ガーデナーヒーリングクラブというボランティアの支援を受け、2階3階、全員参加の彼岸花鑑賞(公園内散策)に出掛けた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、手紙の表書き等行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が面会時に一緒に食事が出来たり、知人や友人も気軽に訪問できる雰囲気を作る様、心掛けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議を利用して、研修を行なっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口がオートロックになっているが、利用者が落ち着かず、外出したい様子が見られたら、可能な範囲で職員と外出し、少しでも閉塞感をなくす様、努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守るとはどのような事を職員会議や日々の業務の中でも伝え、実行するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ダンス等の角に当たってケガをしそうな場合は、カバーシールを貼ったりし、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人の状態をしっかり把握することで対応すると共に、予防するには何に注意するべきか等、職員会議で研修を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成すると共に、職員研修時に一つ一つ取り上げ、職員全員が対応できるようにしている。緊急搬送時にすぐに携行出来る個人の病歴・服薬などを誰もがわかる場所に常に設置している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行い、火災発生時の避難方法を確認している。また、職員の大半が近隣である為、緊急連絡網を作成している。また、防災用の備蓄品を準備し、リストも作成、常時保管している。地元町会への協力の要請も民生委員を通じて行なっている。今年中に夜間想定での避難訓練も行う予定。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	管理者・計画作成者中心に行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、利用者の状態を観察し、少しでもおかしいと思った時には、職員全員で共有し、医療との連携をとったりし、対応できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	開設当初より、スタッフルーム内に利用者の『薬ファイル』を作り、職員誰もがいつでも見られ、把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、観察する中で、便秘気味であれば、水分(牛乳)や食物繊維の多いものを食べて頂き、予防や対応行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼は十分に出来ていない時もあるが、朝・夕中心に歯磨きの介助を行なっている。義歯については、全利用者を対象に、定期的にポリデント洗浄している。また、訪問歯科に往診してもらい、週に一度は口腔ケア中心に診て頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事チェックを行い、どれだけ食事が摂れているかを把握している。顔色の観察も行い、栄養不足気味であれば、併設のクリニックの医師に相談、確認を依頼するなどし、対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	行政が行なっている感染症についての勉強会に参加し、それを職員会議で報告したり、ファイルを用意し、回覧するなどし、予備知識を身につけるようにしている。ノロウイルスに関しては施設内の手すりの消毒や、排泄介助後の手指の消毒など細心の注意を払っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎晩及び必要な時は随時、塩素消毒や熱湯消毒を行い、食中毒予防に努めている。また、基本的な手洗いを徹底するよう(手洗いの方法等)にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場には花や観葉植物を置き、温かい雰囲気を持てるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・談話室以外にも廊下にソファを置いたり、テラスに花を植えたりし、季節を感じてもらったり、居心地良く過ごせる様、工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・談話室以外にもソファを置き、独りで過ごせたり、気の合った利用者同士で過ごせるような工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が使用していた家具やベッドを持ち込んで頂くよう、入居時に話し合いをしている。入居者の中には仏壇を持参されたり、マッサージチェアを持参される方もある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、居室の掃除をする際は窓を開けて換気をし、外気温が日中・夜間の差が大きな時は普段以上に注意し、こまめに温度調節行なっている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを付けたり、車椅子でも入れるトイレを設置し、出来るだけ自立した生活が送れるよう、工夫している。また、廊下を端から端まで(約30m位)を何往復もする事を食後の日課にしておられる方もある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員全員が一人ひとりを知ることで、個別の対応を心掛けている。また、書道の先生をしておられた方が、般若心経の写経を全員に配られるなど、今まで培ってこられたものを楽しんでおられる事もある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスには花壇を設け、四季に応じて花を絶やさぬように配慮し、必要に応じ、居室やベランダに植木鉢を置いたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

8月より、看護・介護の経験豊富な看護師(元病院総師長)に職員の教育・指導・監督に月4回来てもらい、医療・介護技術を学び、介護サービスの質の向上に取り組ん